現場支える機器・装置

医薬原薬・中間体 市場動向を追う ④

先端ニーズ取り込み狙う

「国際医薬品原料・中間体展（CPhI Japan）」と併催の「医薬品原料 機器・装置展（P-MEC Japan）」では、機器・装置メーカー各社が競って先端領域の技術や製品を多数出展する。製薬企業の研究・開発の現場や品質管理、製造ラインを支える反応容器、撹拌機、測定装置、分析機器などの装置を実機やパネルで紹介する。2020年に向けジェネリック医薬品（後発薬）市場で活発な設備投資が続くと予測されるなか、各社は独自技術を生かして受注を積み上げ、基盤強化を目指す方針だ。

PIC／Sに対応

リガクは、医薬工場向け携帯型ラマン分光計「プロジェニー」などを紹介する。製薬企業の製造プロセスで、全数検査など世界規模で強化されつつある厳しい規制に準拠したPIC／S（医薬品査察協定／協同スキーム）に対応する計測機器。従来の赤外線分光計から、規制に対応可能なラマン分光計で市場を開拓する。片手で使用可能な携帯型の特徴を強調していく。

DKSHジャパンは、独ラウダ社の高性能低温循環恒温槽「プロラインシリーズ」などを展示する。新薬の開発競争が激化するなか、高精度な温度制御を実現できる強みを生かし、受注積み上げを急ぐ。

片手で使用可能なリガクの携帯ラマン分光計「プロジェニー」（上）。最先端のがん治療への適用を目指すマイクロトラック・ベルの「ゼータビュー」

マイクロトラック・ベルは、1台で粒子径分布・ゼータ電位の測定と粒子数の計数を実現する「ゼータビュー」を出展する。がん転移に重要な役割を果たすとみられるエクソソーム（がん細胞が分泌する小胞）などのがん治療研究や、医療分野で殺菌技術への応用が見込まれるナノバブルへの適用を狙う。

JTEバルテックは、米Cテクノロジーズ製の紫外可視分光光度計システム「SoloVPE」に力を入れる。特許技術である可変光路長テクノロジーを採用した製品で、海外では抗体の濃度測定に使われている。高濃度サンプルを希釈なしで直接測定でき、バックグラウンド補正も不要。抗体・精製たんぱく質の定量分析用途などを想定する。

ジャパン ライフサイエンスウィーク 2016
CPhI japan
4月20～22日 東京ビッグサイトで開催

新日本空調は、最先端の微粒子可視化システムを出展する。超高感度カメラと独自開発の可視化光源の組み合わせにより80μ以の浮遊微粒子をリアルタイムに映像化できる世界最高水準の装置で、システムの販売に加え受託サービスも展開している。展示ブースに設けたデモコーナーで実際に可視化を体感してもらうなど工夫を凝らす。

水分計で最高機種

ケット科学研究所は、製造プロセス中に水分測定を行う赤外線水分計の最高機種「FDS00」などを展示する。原体、中間体、製剤までの各工程において、組成変化の防止や品質管理の徹底という現場ニーズに応える。

医薬品業界では、バイオ医薬品の開発競争の激化やジェネリック医薬品の数量増にともなう設備投資の増加が続くと予想されている。また製薬各社は従来のバッチ式生産方式から連続式の導入を検討するなど、顧客ニーズは一段と多様化・複雑化するだろう。装置メーカーにとって、いかに早く、正確に顧客ニーズをつかみ、製品化につなげるかが勝敗のカギを握るといえそうだ。

（おわり）

この連載は渡辺義真、堀口昇、山下裕之、濱田一智、小谷賢吾が担当しました。